

令和4年度学校自己評価システムシート (県立川島ひばりが丘特別支援学校)

目指す学校像	・将来の自立や社会参加に向け、心豊かに、たくましく生きる力を身につけることのできる学校。 ・保護者や地域、関係諸機関から信頼され、誇れる学校。
--------	--

重点目標	1 児童生徒一人ひとりの可能性と力を最大限引き出す授業づくり 2 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための取組の推進 3 年間を通して児童生徒が健康で安全に学習できる環境づくり
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	9名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	①新型コロナウイルス感染症拡大防止を徹底しつつ、教育活動の更なる充実を目指した学校運営が必要である。 ②肢体不自由教育に初めて携わる教員を多く迎える現状を踏まえ、教育観、児童生徒に対する観察眼、目標設定、計画立案及び指導方法について、同僚性を発揮し、これまで培った教育実践を継承し、発展させる。 ③新学習指導要領への対応や「流れ図」(自立活動の個別の指導計画)の作成により、根拠を明確にしなが、各教科・領域等の指導の充実を組織的に図る。 ④対面授業に加えて、オンライン授業等を組み合わせて指導の充実を図る。 ⑤教職員が心身共に健康で教育活動に取り組めるように、新「学校における働き方改革基本方針」に基づき、ワークライフバランスの適正化と推進に取り組む必要がある。	○組織的に教育力を向上させる	①【新型コロナウイルス感染症拡大防止の徹底及び教育活動の充実】感染症拡大防止に向けた「新しい学習環境づくり」に基づいた児童生徒、保護者、施設、教職員への正確かつ適切な情報提供を行い、感染対策を踏まえた教育活動を展開する。②【教員の資質向上】研究修養とOJTに励み、児童生徒の見方や教育観、指導の技能技術、児童生徒の健康と安全の保持増進、保護者、施設との連携体制の維持向上に努める。また、社会的な常識・規範とコミュニケーション等、若手教員に適時適切に指導し後進の育成を果たす。③【教育活動の充実】自立活動部と連携して個別の指導計画立案に際して「流れ図」の作成を定着させることにより、担任間の共通理解に基づいた自立活動の指導の妥当性を高める。また、各教科等の指導の充実を図る。④【対面とオンラインの取組の発展】情報教育部、各学部と連携して、ICT機器等を含めた教材教具の効果的な活用を検討・実施する。また、状況に応じて校外外でのオンラインを活用した同時配信授業及びオンライン授業参観等を検討・実施する。⑤【働き方改革】「働き方改革検討委員会」(仮)を立ち上げ、働きやすい職場環境について検討する。	学校評価アンケートでの次の質問項目に肯定的な回答が増えたか。また、各学部・分掌等のシートが次の項目と連鎖する場合は、その達成状況を参考とする。 ①保護者、施設、地域と連携して新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら学校行事を安全に実施することができたか。②教育目標等に基づいた教育活動を実践されているか。学習指導は創意工夫されていたか。③各教科・領域等の指導において児童生徒の実態に合った計画・指導・評価が行われたか。また、児童生徒の変容が見られたか。④ICT機器等を含めた教材教具等の効果的な活用について検討・実施することができたか。また、オンライン授業やオンライン授業参観等を検討・実施できたか。⑤働きやすい職場環境について検討できたか。	①「新しい学習環境づくりを感染状況に応じて更新し、感染対策の徹底に努めた。迅速かつ適切に組織的に対応することで、感染の広がりを抑えることができた。学校行事については、修学旅行をはじめとして校外外の宿泊学習をすべて実施することができた。アンケートからは96.7%の肯定的回答を得た。②日々の授業においては、各指導グループで個々の実態に応じた教材や指導方法を工夫して児童生徒の変容を促した。91.7%の肯定的回答を得た。③自立活動の指導においては「流れ図」等根拠に基づいた指導を行うことができてきている。④ZoomやMeet等を使用したオンライン授業参観や全教集会、個別面談等活での用がさらに増えた。96.8%の肯定的回答を得た。⑤働き方改革検討委員会を立ち上げ、職員を対象としたアンケートを実施した。委員会メンバーで、よりよい職場環境づくりについて検討することができた。	A
2	①区内小中学校等の求めに応じた支援、就学相談等については、引き続き継続発展する必要がある。 ②学校関係者による理解促進と連携強化の指摘を踏まえ、進路開拓を進める必要がある。 ③学校間交流等や支援籍学習の推進をはじめ、共生社会の形成に向けて情報発信や交流体験等を拡充する。引き続き、本校及び児童生徒に対する理解啓発を含めた特別支援学校としての情報発信を続ける必要がある。 ④コミュニティ・スクールへの移行について検討する必要がある。	○共生社会の形成に向けた取組を進める	①【センター的機能の発揮】地域からの求めに応じた支援の充実、早期の就学相談の実施、行政機関とのネットワーク会議の年2回開催、支援ボランティアの養成講座、公開講座の実施等、本校のセンター的機能の発揮及び充実を図る。 ②【進路開拓】進路指導主事と連携し、市町の協力やハローワーク、医療的ケア、重度・重複障害の児童生徒に対応できる生活介護施設との連携を深め、生徒の進路実現に向けた取組を進める。 ③【学校間交流、支援籍学習】支援連携部と連携し、オンライン交流も含め、内容を検討し共に学ぶ機会を積極的に設定する。 ④【コミュニティ・スクール】コミュニティ・スクールへの移行に向けた検討のためのアンケート等を実施する。	学校評価アンケートでの次の質問項目に肯定的な回答が増えたか。また、各学部・分掌等のシートが次の項目と連鎖する場合は、その達成状況を参考とする。 ①地域からの要請に適切に対応できたか。②進路開拓を進め、希望の進路選択ができたか。③オンラインを含めた学校間交流等や支援籍学習は適切に実施されたか。また、配付物や配信等により学校の様子がよく伝わったか。④コミュニティ・スクールへの移行について検討することができたか。	①センター的機能として378件支援を行った。公開講座を対面形式で行うことができ、外部から45名の参加を得た。年2回ボランティア養成講座を行い、17名の参加を得た。②地域の施設と連携し、進路については高3全員の進路先を決定することができた。③学校間交流ではオンライン、対面形式で開催方法を工夫しながら、実施することができた。支援籍学習についても対面形式で学ぶ機会を増やすことができた。学校間交流では90.1%、支援籍学習では94.8%の肯定的回答を得た。④コミュニティ・スクールの概要について全体研修を行い、共通理解を図った。年度末にアンケートの実施を行い、検討していく。	A
3	①保護者、施設の理解と協力を得た医療的ケアの円滑な安全実施をさらに維持向上させる必要がある。 ②緊急時や災害等に対する危機管理意識を高め、迅速に対応できるようにする必要がある。 ③安全な学習環境を維持するために巡回や時間による門扉の閉鎖、保護者パス等の利用を徹底する必要がある。	○児童生徒が健康で安全に学習できる学習環境を整える	①【安心安全の維持向上】ヒヤリハット報告等事故防止のこれまでのノウハウを踏まえ、正常性バイアスを撤廃した安心安全の維持向上を遂げる。医療的ケアに関しては、引き続き担当教員の育成を図る。医療的ケア検討委員会を中心に「人工呼吸器管理に関するモデルケース事業」を円滑に遂行する。 ②【災害、緊急対応】防災安全部やスクールバス部と連携し、危機管理意識の共有により課題を早期に発見し、発生時には事実の正確な把握、改善までの丁寧な対応を組織的に迅速かつ確実に実施する。 ③【安全な学習環境、情報発信】門扉の閉鎖、保護者パスの利用を徹底する。HPやメール配信により迅速な情報提供を行う。	学校評価アンケートでの次の質問項目に肯定的な回答が増えたか。また、各学部・分掌等のシートが次の項目と連鎖する場合は、その達成状況を参考とする。 ①施設設備は安全であったか。また、医療的ケアは適切に実施されたか。②緊急時や災害に対する危機管理意識を高めることができたか。③HP、メール配信による情報提供は適切であったか。	①医療的ケアについては、「人工呼吸器管理を含めたモデルケース事業」の委嘱を受け、ケース会を実施し、3名の生徒保護者の教材特権を段階的に実施することができた。医療的ケアの満足度については94.4%の肯定的回答を得た。②防災安全部、スクールバス部と連携して防災訓練(年2回)、引き渡し訓練を実施した。98.4%の肯定的回答を得た。③門扉の閉鎖等について周知実施を通して安全な学習環境の維持に努めた。バスの運行等については随時、必要に応じてメールを配信し、迅速な情報提供を行った。	A

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和5年2月27日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・コロナ禍において活動がさらに充実したことは素晴らしい。掲示物が変わっていることは先生方の努力されている様子をうかがうことができた。 ・児童生徒が生き生きしている。ハンディキャップがある場合はチャレンジしていくことが大事である。成功体験をたくさん積み重ねてほしい。 ・マスク着用がなくなるなど、「withコロナ」へと世の流れが変わっていくと思うが、引き続き感染対策を行いながら、子どもたちの経験の幅を広げてほしい。	・カスタマイズされた個別の対応と全体をまとめることの大変さを感じた。インクルーシブの認識はあるが、なかなか難しさを感じている。交流する内容だけでなく職員の専門性を高めていきたい。 ・子ども同士の交流は、その場で共有する雰囲気、何気ない声掛け等オンラインでは伝わらないものも重要である。対面実施の検討を望む。
・人工呼吸器管理を含めたモデルケースでは進展を感じた。引き続き、保護者が安心して預けられる環境を整えていただきたい。 ・施設でも基本的にすべて記録を残しているもので、それを参考に何か連携ができるとうい。 ・防犯、防災については、引き続きご対応をお願いしたい。	